

長時間継続するラジアルな IMF について

Long duration radial IMF events

亘 慎一[1], 渡辺 堯[2]

Shinichi Watari[1], Takashi Watanabe[2]

[1] 通総研, [2] 茨城大・理・環境

[1] CRL, [2] Env. Sci., Ibaraki Univ.

地球付近では、太陽の自転速度と太陽風速度のバランスにより、IMF の方向は太陽 - 地球方向に対して平均的に 45 度になることが知られている。しかしながら、太陽風中で、時々、ラジアルな IMF が長時間観測されることがある。本研究では、このような長時間続くラジアルな IMF について太陽風パラメータの 1 時間値を用いて統計的な解析を行った。その結果、このような IMF のイベントは速度から期待される温度より低い温度を持つ太陽風中で観測されることが多いことがわかった。また、フラックスロープの中や惑星間空間擾乱のテールの部分などで観測されることもあるが、必ずしも擾乱と対応しないケースも観測されている。